

日本看護医療学会雑誌 投稿規定

1. 本誌投稿者は、原則として著者及び共著者すべて、本学会員とする。但し、編集委員会により依頼した原稿はこの限りでない。
2. 原稿は下記の論文種別による内容であり、刷り上がりで制限頁数以内とする。その掲載料は有料とし、別途に定める。
論文種別：内容と制限頁数（要旨、図表を含む）。原則として、すべて和文要旨（400字程度）をつける。
オリジナル・アーティクル：独創的で新しい研究成果を記述した研究論文。学術上の価値および有用性があり、看護学および医療の発展への貢献が期待できるもの。和文要旨に加え、英文抄録（250語程度）をつける。10頁
短 報：オリジナル・アーティクルと同じ性格で、速報的に書かれたもの。5頁
総 説：看護・医療・福祉等に関連する諸分野の特定のテーマについて文献レビューによる学問的状況の概説。技術的価値と有用性および信頼性を備えたもの。10頁
資 料：看護・医療・福祉に関連する諸分野の研究・実践に資すると認められるもの。10頁
原稿はA4判1600（40×40）で刷り上がり1頁とする。図表は1点が刷り上がり4分の1頁とする。但し、編集委員会が認めた場合は、この限りでない。
3. 別刷については、予め著者より申し受けて実費を著者負担とする。
4. 図表はA4判用紙にトレースした原図を添える。また、印刷業者でトレースが必要になったときは実費を徴収する。
5. 原稿には、所定の表紙を付け、表題（和文、英文）、著者全員の氏名（ローマ字名併記）・所属機関（英文併記）・会員番号、代表者の氏名および連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）、キーワード5つ以内（英単語表記）、希望する原稿種別、本文・図表・写真の枚数、別刷り希望数、利益相反および外部資金について記入する。
6. 投稿原稿は、表紙、本文、図表、写真等のオリジナル原稿1部および所属・氏名・会員番号・連絡先を除いた査読用コピー3部を提出し、学会ホームページからダウンロードして著者が署名（自筆）および捺印をした宣誓書一部を同封する。デジタルデータは最終修正時に提出する。
7. 投稿原稿の採否及び種別については、編集委員会で決定する。なお、原稿は原則として返却しない。
8. 校正に当たり、初校は著者が、2校以後は著者校正に基づいて編集委員会が行う。なお、校正の際の加筆は一切認めない。
9. 原稿執筆要項は、別に定める。
10. 著作権については、会員の権利保護のために、掲載された原稿の著作権は本学会に属するものとする。帰属する資料を引用するときは、著者がその許可手続きを行う。
11. 原稿送付先
〒461-8673 名古屋市東区大幸南1-1-20
名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻看護学コース内
日本看護医療学会編集委員会 委員長 宛
なお、封筒の表には、「日看医誌原稿」と朱書し、書留郵便で郵送する。
12. この規定は1999年10月2日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2001年9月29日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2003年9月27日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2005年10月1日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2006年10月7日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2007年10月6日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2009年10月3日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2011年10月1日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2014年10月1日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2015年10月10日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2019年9月21日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2022年5月21日より発効する。

日本看護医療学会雑誌 原稿執筆要項

1. 原稿につける表紙は本誌掲載の書式をコピーまたは本学会ホームページからダウンロードする。
2. 原稿はA4判縦置きに1600（40×40）字の横書きとし、本文に頁数を明記する。
3. 当用漢字，新かなづかいを用い、ワードプロセッサによる印書とする。
4. オリジナル・アーティクルの構成は、I. 緒言，II. 方法，III. 結果，IV. 考察，V. 結論，VI. 文献，とし、項目分けは、1. 2. 3. …，1) 2) 3) …，I，II，III…の区分とする。
5. 数字は算用数字を用い、単位や符号は慣用のものを使用する。特定分野のみで用いられる単位、略号、符号や表現には註書きで簡単な説明を加える。なるべく国際的な共通語を使用する。すべての単位はSI単位とし、次のようなものを用いる：kg, mg, ng, Eq, mm, ml, kcal, °C, min 等。単位にピリオドは不要。
6. 図表、写真等は、それを説明する文章の末尾に（表1）のように記入し、更に本文とは別に挿入希望の位置を原稿の欄外に（表1）のごとく朱書する。図表は、原稿本文とは別にまとめて、巻末に添える。
図表の表題は、原則として、図ではその下部、表ではその上部に明示する。
7. 利益相反
利益相反（COI）については、謝辞などの箇所に次の内容を記載する。1）COIがある場合には、その内容を記載する。2）COIがない場合は、「開示すべきCOI状態はない」などを記載する。
8. 文献記載の様式
文献は、本文中に、著者名、発行年次を括弧表示し、本文原稿の最後に、著者名のアルファベット順に整理して記載する。著者名は、本文中では文章に組み込む場合は筆頭著者のみで「〇〇ら（2022）」、括弧内に入れる場合は筆頭著者のみで「（〇〇 他，2022）欧文文献の場合は（〇〇 *et al.*, (2022)）」とする。
文献リストでは、4名以上の場合は最初の3名を記載し、以下「他」（欧文文献の場合は「*et al.*）」とする。雑誌名は省略せずに記載する。
9. 投稿前に本誌掲載のチェックリストを用いて内容を確認する。

【記載方法の例示】

※雑誌の場合；著者名*（発行年）：論文名，雑誌名，巻(号)，頁. の順に記載する。

*和名は姓名。欧文名は姓のあと一字空けて名のイニシャル，そのあともしあればミドルネームのイニシャル。

林 美子，中根美智子（1998）：動脈注入化学療法を受ける患者の看護，臨床看護，25(2)，234-238.

Koyano W. (1989): Japanese attitude toward the elderly: A review of research findings, *Journal of Cross-Cultural Gerontology*, 4, 335-345.

※単行書の場合；著者名（発行年）：書名，引用頁，発行所，発行地. の順に記載する。

見藤隆子（1993）：学問としての看護，108，医学書院，東京。

Kolb D.A. (1984): *Experiential learning-Experience as the source of learning and development*, 39-60, Prentice-Hall, New-Jersey.

（分担執筆）；

渡辺孝子（1998）：告知とインフォームドコンセント，がん看護学（季羽倭文子，他 編），84-91，三輪書店，東京。

Redman B.K. (1993): *Assessment of motivation to learn and the need for patient education: The Process of Patient Education* (7th ed), p.34, C.V. Mosby, St Louis.

※訳書の場合；原著者（原書の発行年）／訳者名（訳書の発行年）：書名，頁，発行所，発行地. の順に記載する。

Rubinfeld M.G., Scheffer B.K. (1995)／中木高夫，石黒彩子，水溪雅子 監訳（1997）：クリティカルシンキング 看護における思考能力の開発，131-152，南江堂，東京。

9. 原則として，またオリジナル・アーティクルに際しては必ず，250語程度の英文抄録（Abstract）及び，その和文（400字程度）を付ける。

10. 英文表題は，最初（文頭）及び前置詞，冠詞，接続詞以外の単語の最初の文字を大文字とする。

11. 掲載料は2000円／頁（刷り上がり）とする。

12. この執筆要項は2023年6月3日より発効する。